



神奈川の研究者紹介

| | | |
|----------------------------------|--|---|
| 氏名 | 中島 滋 (なかじま しげる) |  |
| 現職 | 文教大学 副学長 | |
| 主な経歴 | 1999年 文教大学女子短期大学部教授 2010年 文教大学教授 (健康栄養学部長) 2017年 文教大学副学長 | |
| 専攻分野・研究テーマ | 栄養学・生化学・ヒスチジンの経口摂取による肥満防止作用、和食の健康増進および老化防止作用、水産物の有効利用 | |
| 主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等) | <p>【著書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Suppressive effects of marine foods intake on obesity and life style related diseases in Handbook of Seafood Quality, Safety and Health Applications, (2010) Cerarettin Alasalvar, Fereidoon Shahidi, Kazuo Miyashita, Udaya Wanasundra eds., The Blackwell Publisher (United Kingdom), pp402-413. <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Histidine Supplementation Suppresses Food Intake and Fat Accumulation in Rats, Nutrition, 20, 991-996 (2004). ・Gender Effects in Dietary Histidine-induced Anorexia, Nutrition, 21, 855-858 (2005). ・Bitter taste and blood glucose are not involved in the suppressive effect of dietary histidine on food intake, Neuroscience Letters, 420, 106-109 (2007). ・Proline decrease the suppressive effect of histidine on food intake and body fat, Journal of Nutritional Science and Vitaminology, 62, 278-281 (2016). | |
| 神奈川県との関わり | <ul style="list-style-type: none"> ・2013年に神奈川県保健衛生表彰 (県知事表彰) を受けた。 ・2017年に第24回日本未病システム学会学術総会会長 (神奈川県横浜市) を務めた。この学術総会では、黒岩知事に名誉会長としてご就任いただいた。 | |
| メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・現在の研究と関心：これまでに、赤身魚に多く含まれているヒスチジンの経口摂取による抗肥満作用を明らかにした。また、ヒスチジンの効果はコメと大豆食品の摂取により高まることを報告した。さらに、ヒスチジンには抗酸化作用があることが期待されており、老化防止や疲労回復にも有効であると考えられる。今後は、和食 (米を主食として赤身魚や大豆食品を摂取する食事) 摂取による健康の維持・増進作用や老化防止作用を明らかにしたい。 ・神奈川県との関連に期待すること：神奈川県が推進している「未病」促進と連携して、和食を活かした健康寿命の延伸に貢献したい。 | |
| 連絡先 | 文教大学 健康栄養学部管理栄養学科 〒253-8550 神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100 電話：0467-53-2111 (代表) E-mail: nakajima@shonan.bunkyo.ac.jp | |

神奈川の研究者紹介

| | | |
|----------------------------------|--|---|
| 氏名 | 海津 ゆりえ (かいづ ゆりえ) |  |
| 現職 | 文教大学国際学部国際観光学科 教授 | |
| 主な経歴 | 立教大学理学部卒業後、株式会社テイクナイン計画設計研究所にて地域計画に従事し、1995年に有限会社資源デザイン研究所を設立。2007年より文教大学国際学部准教授、2013年教授。 | |
| 専攻分野・研究テーマ | 【専攻分野】 エコツーリズム、サステナブル・ツーリズム 【研究テーマ】 エコツーリズムを活用した地域活性化・自然保護 災害復興のエンジンとしての観光 | |
| 主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等) | 【著書】 みんなで作るフェノロジーカレンダー (2018、旬報社) エコツーリズムから持続可能な開発へ—楽園は誰のもの? (翻訳) (2016、くんぷる) エコツーリズムを学ぶ人のために (2011、世界思想社) 日本エコツアー・ガイドブック (2007、岩波書店) 他 【論文】 観光まちづくりの推進に向けた観光ガバナンス研究の動向と可能性 (2018) 持続可能な地域社会の運営に資するエコツーリズムの課題 (2017) エコツーリズムから持続可能な観光へ—世界の模索・日本の可能性— (2017) 他 【行政委員】 国土交通省奄美群島振興開発審議会委員 (2014~) 国土交通省小笠原振興開発審議会委員 (2004~2014) 環境省エコツーリズム推進法あり方検討会委員 (2013) 国立公園における協働型運営体制のあり方検討会 (2013年度) 茅ヶ崎市マスタープラン策定委員会委員 (2017~2018年度) 他 | |
| 神奈川県との関わり | 鎌倉在住。神奈川県観光振興戦略検討会議委員 (2008) として「観光かながわブランドデザイン」策定に関わった他、かながわ観光移動大学の参加大学メンバー、神奈川県大学発・政策提案採択 (2010) 他。自治体では鎌倉市観光協会理事 (2017年度~)、茅ヶ崎市バリアフリー基本構想委員 (2014年度~) 他多数。 | |
| メッセージ | 【関心を持っている領域】 エコツーリズムは地域に寄り添う観光。地域の方々とともに、埋もれていた身近な資源に光をあてて「宝」を発見するプロセスから始まります。原石を顕在化することは、災害地域では誇りを取り戻すことにつながり、非観光地では新たなプログラムに発展します。異なる世代間で行えば、想像もつかないエネルギーを生み出します。実践を通してそのモデル化に取り組んでいます。 【神奈川県へのメッセージ】 神奈川は日本史に残る数々のエポックの舞台です。背景には神奈川特有の自然環境や地理条件、人物の来歴があり、その魅力と多様性は限界がありません。常に研究、教育、新時代創造の源泉となり続ける地と考えています。 | |
| 連絡先 | 文教大学 国際学部国際観光学科 海津研究室 〒253-8550 神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100 電話: 0467-53-2111 (代表) E-mail: kaizu@shonan.bunkyo.ac.jp | |